

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：32633

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K19770

研究課題名(和文) 病院内の高齢患者における社会的フレイルに関する指標の開発-社会的交流の報告-

研究課題名(英文) Development of an social frailty index in hospitalized older patients - a report on social interaction-

研究代表者

江藤 祥恵 (ET0, Sachie)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：70803493

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は入院高齢患者の社会的フレイルの様相を明らかにし、社会的フレイルの評価指標や介入方法を探索することを目的とした。文献検討において、和文文献では入院患者に関する報告はないことが示された。英文文献では心疾患患者の報告が8件中6件であり、評価指標はTilburg Frailty Index、Social SupportやBackgroundが使用され、QOL、再入院率、死亡率と関連があった。入院高齢患者において入院目的である疾患の治療に加え、社会的フレイルへの介入が必要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、文献を基に「入院高齢患者における社会的フレイル」の様相、評価指標、研究の進捗状況を明らかにしたことである。入院高齢患者の社会的フレイルの様相を探索したことで、介入の必要な者を特定することにつながると考える。また、入院高齢患者の社会的な状況や交流を前出の指標を参考に評価することで、介入の必要な点を明確にすることができる。さらに、社会的フレイルへの介入は入院高齢患者のQOLの維持、向上、再入院率や死亡率の低下に寄与する可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to identify social frailty in hospitalized older patients and to explore indicators and intervention methods. It was shown that there were no reports on Hospitalized older patients in the Japanese literature. In the English literature, 6 of 8 reports were on older patients with cardiac disease, and the indicators used were the Tilburg Frailty Index, Social Support and Background, which were associated with QOL, readmission rates and mortality. The results suggests that interventions for social frailty in addition to physical treatment are needed in hospitalized older patients.

研究分野：老年看護学

キーワード：入院高齢患者 高齢者 社会的フレイル フレイル 入院

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本邦では、今後さらに加速する高齢化を見通して、高齢者が自分らしく生活できる地域づくり、地域包括ケアシステムの構築を課題とし、これを実現するために医療機関に地域包括ケア病棟が設置されている。ここに入院している高齢者のうち3人に1人が身体的フレイルに該当するとの試算があり(北川ら, 2016) 高齢者は病院から在宅生活に戻るために、治療と同時にフレイルに対する専門的な支援を必要としている。フレイルは身体的、認知・心理・精神的、社会的要素から構成され、これらのうち社会的フレイルは身体的フレイルや要介護、抑うつ、閉じこもり、死亡リスクの増大と関連があり(田中ら, 2018) 高齢者の生活に与える影響が大きい。地域における支援のみでなく、療養生活を支援する医療施設においても、身体的フレイルに加え、社会的フレイルに対する視点を持ってケアを検討する必要がある。

しかし、フレイルに関する研究は要支援・要介護予防を目的として、地域在住高齢者における身体的機能の改善や向上のために、運動による介入の検討が中心に行われてきたため、社会的フレイルの研究は少なく、入院中で在宅復帰期の高齢患者(以下、入院高齢患者)に関する研究はさらに少ない(Lee, P. H., et al., 2012)。地域在住高齢者においても社会的フレイルの定義は定まっておらず、「社会活動への参加や社会的交流に対する脆弱性が増加している状態(藤原, 2017)や「加齢に伴う生活環境や社会活動の変化から、社会的孤立や閉じこもりなどに対する脆弱性が増加している状態」(田中ら, 2017)などと言われている。いずれも地域在住高齢者の社会参加の機会の欠如や減少による心身への危険性をスクリーニングしようとする試みが行われているが、社会的フレイルのリスクが高い入院高齢患者に関する研究まで至らず、支援を検討するには定義や評価指標・要素、介入方法や効果指標の検討が課題である(図1)。

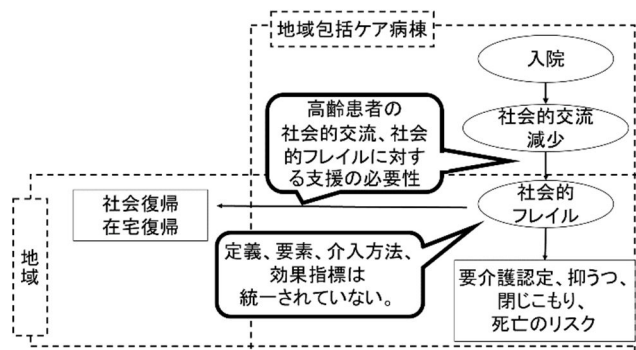


図1. 入院高齢患者の社会的フレイルに関する現状と課題

2. 研究の目的

本研究では、入院高齢患者の社会的フレイルの予防・改善、在宅復帰後の社会参加の促進、介護予防もしくは介護度悪化の予防、死亡リスクの減少を目的とし、入院高齢患者の社会的フレイルの要素、評価指標の検討と介入方法、効果指標の開発を行う。

3. 研究の方法

(1). 文献検討

入院高齢患者の社会的フレイルの構成要素、評価指標を見出す。また、介入方法、評価指標の類別をし、先行研究の進捗状況から見た今後の研究の課題を見出す。

(2). インタビュー調査

文献検討にて明らかとなった点を参考に、入院高齢患者を対象としたインタビュー調査により、社会的フレイルのプロセスを見出し、介入方法検討の手がかりとなる視点を見出す。

(3). 質問紙調査

インタビュー調査の結果を参考に、社会的フレイルに関する構造的な質問紙を作成し、入院高齢患者の基本属性、疾患、治療、入院前・後の社会的状況や社会的交流の程度、介護度や介護サービスの必要性などとの関連性を探索し、社会的フレイルを増大させる要因や予防策、介入を必要とする点を見出す。

4. 研究成果

本研究の実施は、SARS-CoV-2 の感染拡大時期と重なり、予定の研究をすべて実施することはできなかった。本研究では、国内外の社会的フレイルに関する文献レビューを実施し、社会的フレイルに関する研究の進捗状況、研究課題を明らかにした。

(1). 社会的フレイルに関する和文文献レビュー

和文文献において、「高齢者」、「入院」、「社会的フレイル」の検索を行った結果、研究論文が該当しなかった。一方で、フレイルに関する研究は地域在住高齢者にて先行し実施されている現状があった。まずは、国内の社会的フレイルに関する研究の進捗状況を示すため、入院高齢患者、地域在住高齢者を問わずに社会的フレイルについて、文献レビューを行うこととした。

目的

社会的フレイルの和文文献を概観することにより、その定義や評価指標、社会的フレイルと関連がある事項を探索し、研究の進捗状況、今後の研究課題を明らかにする。

方法

検索データベースは、医学中央雑誌(Web以下、医中誌Web)、CiNiiを使用した。検索キーワードは「高齢者」、「社会的フレイル」とした。なお、社会的フレイルの研究を概観するため、量・質的研究や論文種別は問わなかった。採択論文はタイトル、アブストラクト、本文からスクリーニングを行い、決定した。

結果

検索の結果、医中誌Web59件、CiNii16件が検索された。重複していた11件を除外し、スクリーニングの結果、医中誌Web44件、CiNii3件の合計47件を採択した。採択文献のうち、研究結果について数値とともに詳細に報告していた研究は4件のみであった。これら4件の対象者はすべて地域在住高齢者であり、入院高齢患者を対象とした研究はなかった。社会的フレイルの評価指標には地域活動、友人・近所づきあい、社会活動指標、余暇および社会交流ステージ、ICFの社会参加、独居、ソーシャルサポート(日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版;以下、LSNS-6-J)、Tilburg Frailty Indicator(以下、TFI)、外出頻度、友人訪問、友人家族に対する無力感、独居、毎日の会話の有無が使用されていた。これらと関連が報告されていた項目はフレイルの予防、要介護度、年齢、閉じこもり、ソーシャルキャピタル、筋力低下であった(表1)。

解説、特集など43件は、主に、社会的フレイルの定義や評価指標を検討する必要性を述べていた。

表1. 社会的フレイルの評価指標と関連が検討されている項目

評価指標	関連する項目
地域活動、友人・近所づきあい	フレイルの予防(女性後期高齢者) (自立度、外出、連続歩行、転倒・骨折、主観的健康感)
社会活動指標、余暇および社会交流ステージ分類、ICFの社会参加(指標の検討)	要介護度、年齢
独居、ソーシャルサポート(LSNS-6-J)、TFI(Tilburg Frailty Indicator)	閉じこもり、SCのうち地域の互酬性(認知的SC)・水平的組織(構造的SC)・近所づきあいの人数(構造的SC)
「外出の頻度の低さ」「友人訪問がめったにない」「友人・家族に対する無力感」「独居」「毎日の会話がでないこと」	筋力低下

考察

本邦において、社会的フレイルに関する研究は少なく、さらに定義や評価指標の検討段階であると考えられた。社会的フレイルの評価指標として活用されている尺度は身体的フレイル、要介護度のほか、高齢者の社会的交流や地域のソーシャルキャピタルと関連が報告されていたことから、社会的フレイルへの介入は、地域在住高齢者の身体、社会的機能の維持、向上に寄与する可能性があり、介入方法を検討する必要性が示唆された。

本研究は、第25回日本在宅ケア学会学術集会にて発表した。

(2). 入院高齢患者の社会的フレイルに関するスコوپングレビュー

目的

本研究はスコوپングレビューを用いて、入院高齢患者の社会的フレイルの要素や評価指標、介入の効果を概観することを目的とした。

方法

本研究は、スコーピングレビューの手法を参考に実施した。研究に際し、研究疑問を「入院高齢患者における社会的フレイルについてどのような報告がされているか」とした。文献検索は医中誌 Web、PubMed、CINAHL を用いた。検索キーワードは「高齢者 (elderly, older adult)」、「社会的フレイル (Social frailty)」、「入院 (hospitalization)」とした。

結果

検索の結果、医中誌 Web 5 件、PubMed 89 件、CINAHL 4 件が検索された。スクリーニングにより合計 8 件を採択した。研究論文 4 件、概説 4 件であった。8 件のうち、本邦からの報告はなかった。研究論文 4 件のすべてが心疾患患者を対象とした観察研究であった。社会的フレイルの評価指標は TFI 2 件、身体的側面 (Get up and go test) と社会的側面 (Social support) の組み合わせ 1 件、Social Background として家族構成やサービス利用など 1 件であった。これらは QOL、再入院率、死亡率、心代償不全、年齢と関連が示されていた (表 2)。

概説は心疾患、泌尿器疾患、術前の入院高齢患者について既存の評価指標と合わせて社会的側面をとらえる必要性を述べていた。

表 2. 入院高齢患者の社会的フレイルの評価指標と関連する項目

社会的フレイルの評価指標	関連の示されていた事象
TFI	WHOQOL-BREF
Social relations, Social support, Solitary living	
TFI の合計得点	再入院率、死亡率
Social support 既婚、独居でない、家族からのサポートがある	再入院率、死亡率
Social background 家族構成やサービス利用など	年齢

考察

研究論文 4 件の対象者は心疾患と限定的で、観察研究による報告であり、社会的フレイルの要素や関連する項目をとらえる段階の研究にとどまり、介入方法を検討した研究はなかった。しかしながら、社会的フレイルは死亡率や QOL などと関連が報告され、入院高齢患者の身体的治療に加えて社会的フレイルへの介入が急務であると考えられた。

今後は、これらの評価指標を用いて、入院高齢患者の入院前、中、後における社会的な状況や交流頻度を調査し、これらへの介入により高齢者の身体機能の維持、社会的交流、QOL、再入院率、死亡率への影響を調査することで、社会的フレイルに対する介入方法を探索することが求められると考えられた。

本研究は、第 8 回日本サルコペニア・フレイル学会大会にて発表した。

(3). 結論

本邦において、入院高齢患者を対象とした社会的フレイルに関する報告はないことが明らかとなった。一方で、地域在住高齢者を対象とした報告では社会的フレイルと要介護度、ソーシャルキャピタル、フレイルの予防、筋力が関連しており、地域在住高齢者への社会的フレイルに対して介入が必要であることが推察された。

さらに、海外の報告へ視野を広げると、入院高齢患者の社会的フレイルは観察研究にて検討されている段階であった。入院高齢患者の社会的フレイルは QOL や再入院率、死亡率と関連が示された。入院高齢患者において、社会的フレイルは高齢者の生活に大きな影響を及ぼす可能性があり、入院目的である疾患の治療に加えて、社会的フレイルのスクリーニングを行い、リスクがある者を特定することが求められていると考えられた。今後は、社会的フレイルに対する介入方法や看護・ケアの方法を検討することが課題であると考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 江藤祥恵
2. 発表標題 地域在住高齢者の社会的フレイルに関する国内文献レビュー
3. 学会等名 第25回 日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 江藤祥恵
2. 発表標題 入院している高齢患者における社会的フレイルに関するスコーピングレビュー
3. 学会等名 第8回 日本サルコペニア・フレイル学会大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------